

# 飼育日誌より

04.7.1 ~ 04.10.8

- 6/15 ☀ シフゾウの発情行動確認。
- 6/16 ☀ オオバタン工事の騒音で驚いたのか、割れた卵の殻が落ちていた。まだ、巣箱に入っているので、卵はあるものと思う。
- 6/17 ☀ リスザルNo. 13退院。戻したあと、問題なく過ごす。
- 6/18 ♣ ダイアナモンキー♀ (2003. 4. 9 円山Zo o生)、19:00到着。B/W1.22kg。
- 6/19 ☂ ヒメウズラ親群と同居させたヒナ2羽、攻撃され負傷。その後1羽死亡。
- 6/22 ♣ ソリガメ♀ 1頭死亡。
- 6/26 ☂ ノドジロオマキザルナナエ、出産。
- 7/1 ☀ ダイアナモンキーウメ♀と新個体♀を同居に向けて、お見合いさせる。
- 7/6 ☀ シフゾウ交尾確認。射精には至らず。キジ舎フクロウ、ネズミを捕まえるようになった。
- 7/8 ♣ チンチラ暑さのため、病院へ引っ越し。
- 7/14 ☂ コモンマーモセットRペア、2仔出産。
- 7/15 ♣ レッサーパンダナナの寝部屋、仔の鳴き声らしき声が聞こえた。  
シマウマ仔、羽村市動物公園へ搬出。
- 7/17 ☂ カナダヤマアラシ朝、出産を確認。BW. 650g。
- 7/21 ☀ ハクビシン (01年生仔) 出産。しかし、食害される。  
オオバタンヒナの鳴き声を確認する(1羽)。
- 7/22 ☀ レッサーパンダ双子の赤ちゃんを確認。
- 7/24 ☀ シフゾウ♂、起立不能。横臥のまま。点滴。ふれあい市立体育館にて出張ふれあいコーナー開催。
- 7/26 ☀ シフゾウ♂、朝死亡を確認。
- 7/27 ☀ 第27回写生大会開催  
オオバタンヒナ、夕方♀によって食害される。
- 7/30 ☀ アオカケイ♀、死亡。♂、目の治療。
- 7/31 ☀ ニホンリス1頭、巣の中で死亡しているのを確認。  
ウシ水飲容器に前肢を入れて涼んでいた。
- 8/2 ☀ ニホンザル今年8頭目出産。
- 8/3 ☀ サマーズキャンプ開催。(~8/4)
- 8/6 ♣/☂ 写生大会表彰式。
- 8/7 ☀ キンパドリ♂死亡。  
ヤギ氷結果実を与える。
- 8/11 ☀ オオハクチョウ越冬舎内にて、1頭死亡。食害と思われる。
- 8/12 ☀ ハワイガン5羽捕まえて性別チェック。
- 8/14 ☀ ナイトズー1日目。4,554人入園。  
なかよしタイム"昼"231名参加。夜)①1,258名参加。②814名参加。"
- 8/15 ☀ ペンギン今年生まれのヒナ2羽がプールで泳いでいた。  
ナイトズー2日目。4,466人入園。  
なかよしタイム"昼"427名参加。夜)①1,027名参加。②810名参加。"
- 8/18 ☂ ハワイガン朝、首のない状態で死亡していた。テンによる食害と思われる。
- 8/19 ☂ チンパンジーのジェーン、出産。
- 8/20 台風 臨時休園。復旧作業
- 8/23 ♣ オオバタン♂朝、死亡を確認。
- 8/24 ☂/♣ なかよしタイム一般54名参加。
- 8/25 ☀ チンパンジージェーンと共に仔を展示場に出す。
- 8/28 ☀ サル山野生のサルが出没。害はなく、夕方にはいなくなっていた。
- 8/31 台風 チンパンジージェーンの子が死亡しているのを確認。  
臨時休園。復旧作業
- 9/1 ☀ コウノトリ♂が♀の展示場に入り同居。特に外傷なし。  
カナダヤマアラシ♂と判明(1ヶ月16日目)。
- 9/8 ♣ ワタボウシパンシエ♀1♀1を出産したが、放棄しており、死亡。
- 9/9 ☀ トナカイ成♀起立不能。点滴。
- 9/10 ☀ トナカイ成♀、午後死亡。
- 9/17 ☂/♣ ニホンザル♀(66)18才、死亡。  
コモンマーモセットLペア、2仔出産。
- 9/18 ♣ ヒツジ♀2、毛刈り。
- 9/21 ☂ チンチラ涼しくなったので病院から帰還。
- 9/23 ☀ 動物愛護フェスティバル2004開催。
- 9/25 ☀ アナグマ♂、朝仰向けでケイレンを起こしていた。病院に収容後死亡。
- 9/29 ♣/☂ レッサーパンダ両方とも♂らしい。B/W1.6kgと1.2kg。
- 10/4 ♣ ニホンザル♀No. 56(11才)死亡。
- 10/8 ☀ アビシニアコロブス♂1頭死亡。

## 飼育動物数

	種類	点数
哺乳類	58	311
鳥類	56	209
爬虫類	10	36
両性類	4	19
魚類	3	19
合計	128	575

(平成16年9月末現在)

## 編集後記

8Pのかたばた通信で紹介している「動物園音楽フェスティバル」で、私は生涯忘れられない「感覚」を味わった。日新小学校吹奏楽部、ベル・ヴィエントス、どちらの演奏もまさに『動物園の自然との大融合』。「動物園と音楽」言葉で表わすと微妙な何ともいえない組み合わせであるが、私のファースト・インスピレーションは「心が震えるほどのマッチング」であった。イベントを終えた職員の第一声は、一同に「またやろうよ!」。きっとお客様の中でも同じ感覚を味わった方がいらっしやっただに違いない。

— 柴田典弘 —